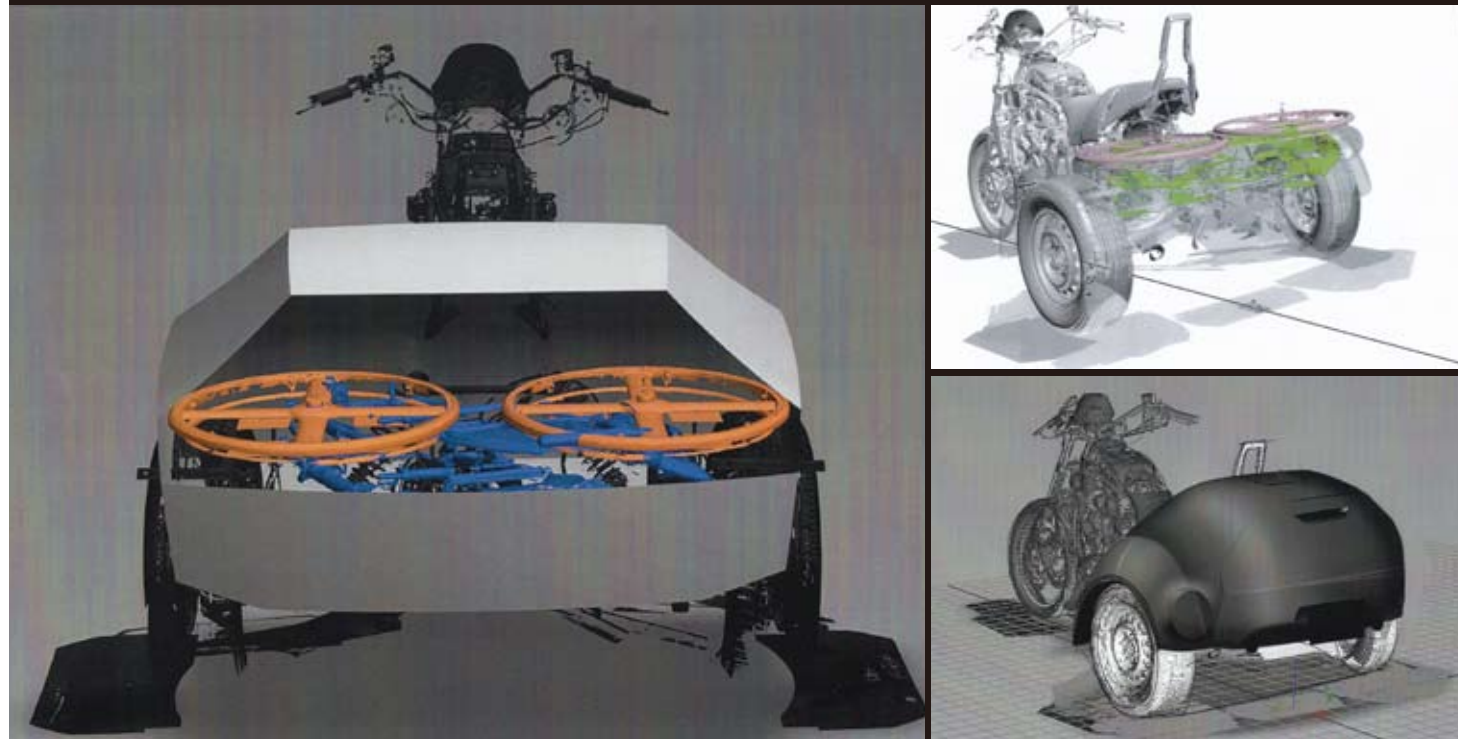




デザイン性を高めて
趣味性を向上させる

ジェイ・ピートレーディングが新しく開発したのは、ここに紹介するトライク。その名も「エボリューション」だ。トライクの新しい価値観を作り上げるため、これまではファンダーサイクルタイプが主流だったV-MAXトライクに、このようなデザイン性と実用性を合わせたトライクを装備した。それがこの「エボリューション」となる。

クルマのトランクとは言いえないまでも、トライクとしてはかなり広大な容量を確保しているため、様々な用途に対応。なお、上記に掲載した開発中のイメージ図をご覧になってもらうは分かるように、折りたたみが可能な車イスであれば簡単に収容可能というのも大きなポイントだ。

人とは違うスタイルでトライクを楽しみたい！でも、実用性も確保してほしい！そんなユーザーの声にしっかりと応えてくれる新しいトライクが、この「エボリューション」であることは間違いない。

YAMAHA V-MAX EVOLUTION

普 自 免 ヘルメット不要

「エボリューション」がワンオフ製作ではなく、しっかりと企画案からデザイン、そして生産までに至っているのは、上記のCADデータが証明している。アイデアをそれぞれのプロが熟考を重ねて製品化している。車いすを折りたたみ、このようにして収納可能。こちらの車両はジェイ・ピーオリジナル電動タイプバックギアを装備。なお、ご覧のように緑のリアルファイヤーパターンからも分かるように、カスタムの相談にも応じてくれるので、興味がある方はぜひお問い合わせを。

製作協力 / 株式会社モディー
http://www.modi.co.jp



J-P trading
Co.,Ltd



ジェイ・ピートレーディング
埼玉県川口市西新井宿911-1 2F
TEL : 048-280-0007
http://jp trading.asia

デザイン性重視の大型トランクを装備

トライクは福祉車両としての存在意義も大きい。トライクでの社会貢献を常に考えているジェイ・ピートレーディングは、車いすを使うユーザーに向けて、デザイン性も強く打ち出した新しいトライクを完成させたのだ。

○Photo by 3WHEELS MAGAZINE ○Text by Toshiyuki Sakayori



HARLEY-DAVIDSON FLHX



HARLEY-DAVIDSON FLHTC



右と同様FLHベースのトライクだが、こちらはトライクらしい威風堂々としたスタイルやカラーリングをそのままにしつつも、シンプルな電飾カスタムでまとめた1台。クリヤキン製パーツなどは、ノーマルデザインを崩さずにさり気なく電飾をインストールしたパーツが豊富にある。そのため、日中ではおとなしいノーマル風でありながら、夜になれば、美しく主張し過ぎないように光り輝くスタイルを披露できるのだ。



HARLEY-DAVIDSON FLSTF

こちらもFLHと人気を二分するソフトテイル系をベースとした車体。誰もがイメージしやすいワイルドな雰囲気となれば、こちらに軍配が上がる。カスタマイズペイント、リアホイールの変更などで雰囲気が一変するのがおもしろいのだ。



HONDA GL1500

新型GL1800の人気の影で、密かに多くのユーザーがいるGL1500。旧型モデルとはいえ、このスタイルに憧れた人もきっと多いはず。サイレンサーを変更すれば、その独特の水平対向6気筒エンジンの迫力も倍増すること間違いなし。

YAMAHA VMAX

前ページで紹介したEvolutionとベース車は共通。それにオリジナルカスタムパーツなどを装着したのがこちらだ。こうしてみると、Evolutionがいかに大きな収納能力を持っているか一目瞭然。根強い人気のV-MAXだけに、利用価値が上がるとまた人気も上がるかも!?



ハーレーの魅力の一つに、カスタマイズパーツの豊富さ、という点がある。カスタム大国アメリカは、社外品パーツでエンジン内部から1台の車両を組み上げることができるほど、高性能な製品に溢れている。また、人気車両メーカーということで、国内ブランドパーツも豊富。人と違った車両に乗りたいという人にとっては、ハーレーこそが唯一無二の愛車を生み出す格好の材料になるはず。

カスタマイズトライクのサンブルと言える仕上がり魅力最近になって、ようやくトライクのカスタムというのもしずっと思がけるようになったように思う。ここで言うカスタムとは、LEDといったいわゆる光モノ系のカスタムではなく、トライクの本場であるアメリカにあるような、美しいカスタマイズペイントや煌めくメッキパーツをバランスよく装着した車両のことを指す。ジェイ・ビートレーディングが手がけたこちらの1台は、鮮やかなオレンジを採用したことで、とても存在感があるのが印象的だが、その存在感がいやらしくなく、素直にカッコイイと言える仕上がりなのだ。前後ホイールも車体同様に塗装してあったり、各部に配置されたメッキパーツもいやらしくなり過ぎない程度に、美しく光り輝いている。日本でもこれだけトライクユーザーが増えてきたのだから、今後はこのようにカスタムを楽しむ人たちが少しずつ増えてくることを期待したい。

3WM REPORT

トライクで社会貢献を目指す
ジェイ・ピートレーディングの思想とは

福祉車両だけではなく
災害救援なども視野に入れた
活動を展開する

74ページで紹介したVMAXエボリューションの企画発案から完成までこのような活動を見ているとジェイ・ピートレーディングが一般的なトライクメーカーではないことに気が始めているだろう。同社が今考えているのは、「バイク&トライクでの社会貢献」なのだ。その大きなきっかけとなったのは、2013年11月にフィリピンを襲った台風30号の復興支援に、同社代表取締役の五十嵐隆博氏が参加したことに始まる。

2014年2月に、NGO法人日本リザルトと共同で実施したフィリピンレイテ・セブ島緊急支援プロジェクト「ボカリスエット&ハーレープロジェクト」に、五十嵐氏は

ハーレーオーナーズグループのメンバーと共に参加。大塚製薬から支援物資として譲り受けたボカリスエット4万本とANAからの機内用毛布9400枚を現地で配布した。実は、五十嵐氏はフィリピンで大型バイクの輸入販売、レストア工場、日本のリサイクル品を扱うリサイクルショップを経営していることもあり、フィリピンとの関係が深い。そのため、こういった社会貢献活動の大切さを現地で痛感してきたのだ。

「日本でも、機動性の高いオートバイやトライクを災害時に有効活動できる仕組みを作る必要があります。そのためには行政と協力関係を結び、新しいステップに踏み出さなければいけないでしょう。この活動が日本国内のバイクやトライクの普及にも繋がり、この業界の発展に役立つことだと確信しています」

こう語る五十嵐氏が、平成26年11月27日に宮城県栗原市と、災害時における交通手段確保に関する協定を締結。これにより災害発生時には被害状況を収集する交通手段を提供する形となった。東日本大震災時にも、同社はガソリン満タンの二輪車を1万円で販売したり、無償での貸し出し支援の実績もあったため今回の締結に繋がったのだ。

趣味としてのトライクライフはもちろんだが、業界発展のため、社会貢献できるバイク&トライクの提供。こういった視野を持つジェイ・ピートレーディングの活動に、今後共注目してほしい。

「ボカリスエット&ハーレープロジェクト」は、日本最大のバイクオークション運営会社BDSの自社媒体でも紹介されている。ジェイ・ピートレーディングホームページからダウンロードできるので、その活動の詳細はそちらを確認してほしい。

<http://www.bikebros.co.jp/vb/sports/sfeat/jptrading/>



二輪車による社会貢献と その普及推進のために 一般社団法人を設立

AED搭載型メディカルバイク



現在、大手企業や行政への保有を目指しAEDを搭載したスクーターも開発しており、それと合わせてこのようにFirst Aid (緊急時救急箱) が搭載されている。



車イス用脱着式電動アシスト



改良中だが、車イスの前部分に別体の電動アシスト機能を装着することで、手動よりも速やかに移動できるのがポイント。



一般社団法人
日本二輪自動車推進協会
Japan Motorcycle Promotion Association

2011年3月11日に発生した東日本大震災をきっかけにして、同社の五十嵐氏は「高齢化社会への対応」と「緊急時に速やかに移動できる体制作り」の重要性を痛感した。それは、この震災で犠牲になった半数以上の方々や、迅速な避難が困難だった65歳以上の高齢者だったからだ。しかも、現在の日本は4人に1人が65歳以上という高齢化社会の時代を迎えている。そのような状況の中で、二輪車による社会貢献とその普及を目的として、『一般社団法人 日本二輪自動車推進協会 Japan Motorcycle Promotion Association (JAMPA)』を設立した。

「バイクによる減災・防災」を目指して、例えば速やかに移動できる電動車イスや、緊急時に怪我人/病人、被災者などの救助を目的としたAEDとファーストエイドキットを搭載したオートバイの開発、普及、人材育成及び始動活動を実施。バイクのあらゆる可能性を探求し、その利用推進、災害支援、復興支援、障害者支援、高齢者支援、国際支援、地球環境保全などに貢献することを目的として、下記の事業を行うことになる。

すでに平成27年3月18日に、宮城県仙台市で開催された第3回仙台台国連防災世界会議にも参加し、各参考車の展示、試乗、説明会もすでに実施。さらにはこの活動を通じて、災害が実際に発生した場合は、五十嵐氏と岩田拓也氏の2名が、諸外国に詳しいいかなる場所へも、状況に適するオートバイを選別し、支援する活動を実施する提案を国に対し行っている。この活動に興味がある方は、下記までお問い合わせを。

<事業内容・目的>

1. 医療及び介護に関わる車両及び用品の販売
2. 関係官庁への建議及び関係機関との連絡強調

<問い合わせ>

一般社団法人 日本二輪自動車推進協会 Japan Motorcycle Promotion Association (JAMPA)
〒100-0013 東京都千代田区霞ヶ関3-6-14 三久ビル501
電話: 03-3591-0777 FAX: 03-3591-0776 E-mail: info@jampa.or.jp
代表理事: 五十嵐隆博